

ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

2017 年の発足以来 8 年が経過し、2025 年度が始まりました。総会には 16 名の会員が参加して、昨年度の活動報告とともに今年度の計画をお知らせし、活動や予算が承認されました。大きなイベントとなる中国地方 5 県交流会の計画について原案をお知らせしました。私たちがホスト役となり、岡山県の貴重な自然を紹介するとともに、中国地方の指導員と一緒に、自然保護活動が発展するように願って、交流を深めることになります。新しく会員になった皆さんも、この機会に積極的に参加するようにお願いします。

活動報告 (2025 年 1 月～6 月)

第 32 回自然観察会

- 日時：4 月 27 日 (日) 10 時～15 時
- 場所：毛無山(新庄村)の登山道
- 内容：早春のブナ林の林床で開花する春植物を観察。ブナ林再生の実験区で、ブナ実生の

成長を観察。山頂からの稜線を縦走し、開花したカタクリの群生を観察した。8 名が参加。
●牧さんが報告 (後述)

年次総会と第 33 回自然観察会—和気町日笠地区

- 日時：6 月 8 日 (日) 10 時～15 時
- 場所：和気町日笠地区公民館
- 総会：10 時～12 時 年次総会。16 名。
- 自然観察会：13 時～15 時 日笠地区公民

館横の日笠川や周辺の里山などで、親子 29 名が参加して、指導員 14 名の案内で、身近な動植物を観察した。
●熱田さんが報告 (後述)

自主活動 玉野市深山公園での水辺の動物

- 日時：3 月 8 日 (日) 10 時～12 時
- 場所：玉野市深山公園
- 内容：例年と同じ時期に園内の散策路を歩いて自然観察をした。用水路や排水路でみら

れるニホンアカガエルやセトウチサンショウウオの卵塊を探した。こども 7 名、大人 15 名が参加した。
●藤原さんが報告 (後述)

今後の活動予定 (2026 年 4 月まで)

中国地方 5 県交流会と第 34 回自然観察会

- 開催日：10 月 25 日 (土) ～26 日 (日)
- 内容：中国地方 5 県交流会。干潟の自然保護に関する講演会と寄島町のアッケシソウ保

護区の視察、カブトガニ博物館の訪問、笠岡湾干拓の現状を視察する。
●詳細は総会資料の日程で確認

講演会と忘年会

- 日時：12 月 14 日 (日) 13 時～18 時
- 講演会：13 時～15 時
- 講師：小林秀司先生 (岡山理科大学教授)
- 内容：岡山の動物 (仮題)

- 忘年会：15 時～18 時
- 場所：e-Tam 自然と教育研究所
- 連絡先：西本 taknishi@js4.so-net.ne.jp

第 35 回自然観察会

- 日時：4 月 26 日 (日) 10 時～14 時
- 場所：毛無山(新庄村)の登山道
- 特徴：早春のブナ林の林床で開花する春植物

を観察。毎年同じ時期に希少なブナ林を訪れて、自然環境の変化を実感する。
●連絡先：西本 taknishi@js4.so-net.ne.jp

4月27日(日)新庄村毛無山にて、自然観察指導員の勉強会があり、西本孝氏の案内で樹林下に咲く花の観察、ブナ林の再生実験調査区の見学が行われました。

毛無山の登山道脇には、ミヤマカタバミやクザキイチゲの白い小さな花が咲き、4合目を越えたあたりからブナの原生林が現れました。ブナの開花年に当たる今年は、混芽の膨らみが多く見られ、双眼鏡を手に眺めれば樹冠上部にブナの花が咲いていました。しかし、ブナ林をよく観察すれば、ヤドリギに寄生され樹勢が弱くなったブナがあちこちにあり、ブナ林の老化を感じずにはいられませんでした(写真1)。

ブナ林の再生実験調査区では、実験を始めてから28年間のブナの生長の様子を見ることができました。高い木でも、まだ樹高は3mに満たないものばかり(写真2)。伸びても1年で10cm。これでは例え発芽しても、生長速度の速いササに負けてしまうのでしょうか。ササのある場所では、ブナの幼木は生きていけないようでした。

また、別の8合目付近の調査区では、ブナの大木が倒れた後、ぽっかりと空が見える場所があり、どのようにその場所の再生が行われていくのか、途中の様子が観察できました。実験のためササが刈られたその場所では、ブナ、クロモジ、タムシバなどの木が育ち始めており、次世代の主演争いが始まっていました。できれば、100年後、ぽっかりと空の見える林冠の穴が、ブナの大木で塞がっていてほしいと願いながら、参加者みんなで昼食を食べました。

その後、毛無山へ登頂し、山頂で記念撮影をした後(写真3)、カタクリの花が最盛期を迎えた縦走路を、遠くには残雪の伯耆大山を眺めながら歩きました(写真4と5)。知的好奇心の満たされる勉強会となりました。

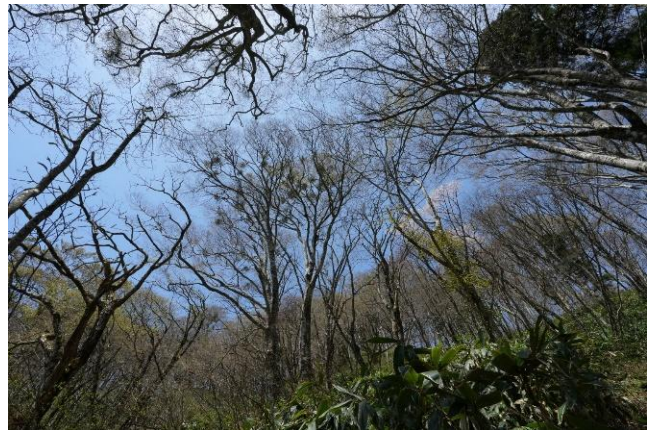


写真1. 葉が出始めたブナ林。ブナの枝先にはヤドリギがついているものもあった



写真2. 手前のブナの幼木は、芽生えてから28年経過しても樹高は3m程度



写真3. 山頂で参加者といっしょに記念撮影



写真4. 登山道脇で群生するカタクリの花



写真5. 手入れされた稜線沿いでは、カタクリが群生

日時：2025年6月8日（日）13時～15時
 場所：和気町日笠地区の日笠公民館周辺
 内容：日笠川周辺の自然を観察しよう

6月8日午前中、和気町日笠地区の日笠公民館にて、NOI岡山2025年度年次総会が開かれました。午後には公民館横を流れる日笠川や廃校となっている日笠小学校の校庭などで自然観察会が実施され、総会に参加された自然観察指導員のうち14名が参加しました。地元の親子を中心に参加を呼びかけ、29名の参加者が集まりました（写真1）。

和気町は岡山県の南東部に位置していますが、日笠地区は町内でも最も北の地区で、冬場は県北よりも冷え込む日もあります。夏は暑く冬は寒い、四季を楽しめるところです。地区を流れる日笠川は、地元の住民の暮らしに根付いており、川で遊ぶ子どもたちもたくさんいます（写真2）。一昨年には河川工学や流域治水の専門家を招き「水辺の小さな自然再生現地研修会」が開催されるなど、地元住民に大切にされている川です。

今回の観察会では、そんな日笠川周辺のお散歩道で、植物や小さな生きものの不思議を探しました。いつも川で遊んでいる地元の子どもたちも、新しい視点に興味津々の様子でした。

まずは公民館に集合し、危険生物の説明や網の使い方などに付いて説明をしていただきました（写真3）。

公民館を出発してすぐに立ち止まったのは、アオカラムシの前。手の上でポン！と音を鳴らして遊びました（写真4）。ラミーカミキリが飛んできたり、ハグロハバチの可愛い幼虫がいたり、大人も子どももポンポンと練習しながら生きものの観察ができました。

川のワンドを上から覗ける地点では、レッドデータブック掲載種との出会いもありました（写真5）。網を入れて、アカハライモリをたくさん確認することもできました。また数種類の魚の稚魚がゆっくり泳いでおり、流れの緩やかな場所の大切さも知ることができました。

写真5. 手入れされたワンドに網を入れると、希少な動物を捕まえることができた→



写真1. 自然観察会に集まった地元の皆さん



写真2. 豊かな恵みが感じられる日笠川周辺の自然



写真3. 危険生物の話を真剣聞くこどもたち



写真4. 葉をグーした手にのせて、手のひらでたたくと、葉が破れた音が出る。うまく出たかな？



子どもたちが次々と捕まえてくるトンボや、クズの葉っぱにたくさんいたマルカメムシなど、ひとつひとつ解説していただきながら進んで行きました。ママコノシリヌグイの名前の由来には親子で驚き、いつも花冠を作って遊んでいるシロツメクサの花の形の理由なんて考えたこともなかったと、小さな子たちも解説に真剣に耳を傾けていました（写真6）。



写真6. シロツメクサの花の秘密を初めて知った

日笠小学校の校庭では、一人一つずつ気になる自慢の一品を探して発表しました（写真7）。

ヒメジョオン、鳥の羽、ツマグロヒョウモンの幼虫、ゲンジボタル、オバボタル、モノサシトンボ、タイサンボク、イヌマキ、ゲッケイジュ、クスノキ、さくらんぼなど、それぞれの視点で発表してくれました。

ホタルの光の仕組みを学んだり、ゲッケイジュやクスノキやタイサンボクの香を嗅いでみたり、ソメイヨシノのさくらんぼを食べてみたりと、日笠の自然を五感で楽しむことができました（写真8）。



写真7. 自慢の一品を紹介

何気なく歩いていたお散歩道や、何気なく遊んでいた校庭で、こんなに自然を楽しめるなんて感動の声も聞くことができました。楽しかった！またやりたい！との感想もあり、小規模でも自然観察会を継続していきたいと思いました。



写真8. 廃校となった小学校で、走り回って探した自慢の一品をみんなでシェアした

事前の下見や当日の進行や解説をしてくださった西本先生、橋本先生、そしてご参加くださったNOI岡山の皆さまに、心から感謝申し上げます。



写真9. 皆さんがにこやかに笑う記念写真には、男の子が投げ上げたタイサンボクの白色の苞が4枚、バッチリと写っていた



写真10. 校庭に咲いていたタイサンボクは白い苞が9枚あり、3枚ずつが同じ大きさ

玉野市は昨年の 12 月から降水量が少なく、今年に入ってから低温の日が続いた。その年の産卵開始時期が冬から早春にかけての気温、地温、水温、降雨量、季節風などに左右される指標生物ニホンアカガエルの産卵も遅れていた。度々行われる公園の草刈りや落ち葉掃除等の影響もあるのか、生きものたちが暮らす林床も乾燥気味になっていた。

2025 年 3 月 9 日(日)、玉野市の深山公園で「水辺の生きもの観察会」が開催された。

午前 10 時に自由広場イベントハウス付近に、子ども 7 人とおとな 15 人が集合した。当日の最低気温は 0℃で、車のフロントガラスが凍結するほどの寒い朝だったが日差しは暖くなり、屋根のあるイベントハウスより陽の当たるベンチの方が受付場所になった。橋本さんに、観察の際の注意事項や子どもたちにも分かりやすいセトウチサンショウウオの説明をしていただいた後、予定している 3 か所のうちの最初の観察地に向かった。

この場所は、山から集まる水の影響を受けて降水量が少ない時でも流れがある小川で、水中の落ち葉の上にあるニホンアカガエルの卵塊が多く見られた【写真 1】。川を覗き込んでも他の生きものは見えなかったが、水中に網を入れると、落ち葉に産み付けられたセトウチサンショウウオの卵囊が入っていた。付近で合計 5 対見つかった【写真 2】。オスの成体も 2 匹見つかり、1 匹は大きかった。大量の土砂が堆積した上に落ち葉が積もり水深が浅い小川に住む生きものたちは、大雨で落ち葉ごと一気に流されてしまう危険もある。

次の場所は、降水量が少なかった 1、2 月には、水の流れが無くなることもあり、「モニ 1000 アカガエル調査」の際には干上がりそうな卵塊を度々移動させた。観察会の日も水の流れは無く【写真 3】、汚れた水に住む指標生物サカマキガイが見つかった。多くの巻貝は殻が右巻きなのにこの貝の殻は左巻きであることに由来する。

最後の、約 360 年前に完成した「近世産業遺産」であり今も大切に使われている深山用水では、ニホンアカガエルや【写真 4】、ウシガエルの成体が観察出来た。

今年の観察会もセトウチサンショウウオを観察することが出来たが、乾燥と低温の影響なのか、確認された水辺の生きものは少なかった。



写真 1. たくさんのニホンアカガエルの卵塊



写真 2. セトウチサンショウウオの卵塊



写真 3. 卵塊を安全な水辺へ移動させた



写真 4. 観察したニホンアカガエル→